

広報

環境カウンセラーちば

第66号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省により認定された環境に関する専門家です。
地球温暖化対策、廃棄物対策、環境教育・環境学習、環境経営など、お気軽にご相談下さい。

[巻頭言]

持続性のある活動を目指して

理事長 井 町 臣 男

明けましておめでとうございます。会員の皆様には、お元気で新年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年の夏は猛暑日が続き、一昨年に引き続きとても暑かった。日本だけではなく世界中で、私たちは地球温暖化をより身近に感じることとなり、「緩和」と「適応」への具体的な行動が、我々環境カウンセラーを含めたEC千葉会員に課せられていると思います。

当協議会には各部・各センターがあり、それぞれ年初計画に沿って会員の皆様と一緒に環境保全活動に取り組んでいます。その中で昨年、地球温暖化対策センターでは生野宏センター長のご尽力により、千葉県の業務用設備等脱炭素化促進事業補助金に係る省エネルギー診断パートナー制度におけるパートナー機関として登録されました。これは、中小企業の省エネルギー診断をおこなう事業であります。また、家庭の省エネ診断「うちエコ診断」を行う部門として、「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」があり、吉田昌弘責任者を中心に佐藤ミヤ子氏、中村仁氏および茨城哲治氏が「うちエコ診断士」として活動されています。そして、2016年本実施機関の立ち上げで大変ご苦労された佐藤ミヤ子氏が、昨年第7回環境カウンセラー環境保全活動表彰で「脱炭素社会貢献賞」を受賞されました。これは、うちエコ診断実施機関EC千葉ネットでの活動とともに、環境学習センターおよび事業部等でご活躍されたことが高く評価されたものです。このような私達会員の様々な活動が高く評価されたことは、大いに感謝したいと思います。千葉市ほか各市町村で実績のある家庭部門の省エネ活動と新たな事業者を対象とした「省エネ診断チーム」との両輪はEC千葉の強みであります。

そして、昨年新たに立ち上げた「生活環境グループ」では、具体的な取り組みテーマとして「高齢者や独居者の見守りと生活サポート手段の現状調査とサービスソフトの提案」を昨年10月に決め、現在千葉県内市町村における課題と対策などの調査・解析を始めました。新たな取り組みの第一歩とともに、会員の皆様の日々の活動を共有化できるようなプラットフォームができないものか？ 会員それぞれが住まわっている地元でのコミュニケーションや見える化できるシステムができないものか？ 皆様方のお知恵をいただければと思います。

2015年9月に国連サミットで採択された国際目標SDGsの2030年まで残り5年となりました。“環境と経済と社会の3方良し”を推進すべくEC千葉は各活動をSDGsに紐付け活動しております。2022年千葉県「ちばSDGsパートナー制度」に登録しました。(登録番号：615)2024年日本の達成度は18位に上昇しましたが、気候変動対策などは最低評価です。2030年に向かって、SDGs目標達成へ今以上に力を入れて取り組む必要があります。今一度、私たちの行動を見直し、第六次環境基本計画に取り込まれた「ウェルビーイング」にも配慮した身近な課題解決への努力を継続していきましょう。



最後に、講演会、セミナー、展示会などを通じて新たな会員の掘り起こしに努め、EC千葉の様々な活動が多くの方々にお役に立ち、そして評価され感謝される団体を目指し、皆さまと共に歩いていく所存です。

＜新しい活動グループの発足＞

「生活環境グループ」がスタート

～高齢者の見守りと生活サポート～

生活環境グループ

昨年9月14日にキックオフした「生活環境グループ」は、①生活の安心・安全、②健康と食、③子どもや高齢者の居場所、④地域の生活環境問題への対応、の4つを基本テーマとした。初めて取り組むテーマとして「高齢者や独居者の見守りと生活サポート手段の現状調査とサービスソフトの提案」を掲げた。

そして、各地域の会員による千葉県内各自治体の現状調査を行い、各市町村の課題と対策について検証し、EC千葉で実施可能なサービスソフトの提案へもっていくことを目標としている。

今回の調査項目は、①高齢者の見守り(体制、システムほか)、②配食サービス、③生活用品の購入サービス、④福祉タクシー(タクシー割引券)、⑤相談窓口(サポート部署)、⑥高齢者サービス施設とした。①高齢者の見守りサポートに関する今回の調査結果を下表に示す。

県内自治体の高齢者の見守りサポート(資料より抜粋)

自治体	高齢者の見守りサポート	(資料)
市原市	・緊急通報装置の利用助成(アルソック) ・徘徊高齢者位置探索システム利用助成 ・ひとり暮らし高齢者への友愛訪問	高齢者福祉のあらまし
千葉市	市が直接行っているケアサービスはなく民間団体へ委託。 ・声かけ、安否確認の連絡などの見守り支援サービス 実施団体: ボランティア、NPO、民間企業 ・千葉市消費生活センターでは高齢者の見守りとして「消費者応援団」という団体と個人の登録システムがある。	生活支援サイト
八千代市	緊急通報システム 急病や事故など緊急時に簡単な操作で、電話回線を通して外部に通報したり、健康相談したりできる機器を設置する。	高齢者の地域生活支援のしおり
船橋市	緊急通報装置の貸与 ・常に安否の確認を必要としている65歳以上のひとり暮らし ・緊急時の対応に、不安感を持っている75歳以上のひとり暮らし	介護保険・高齢者「福祉ガイド」
白井市	白井市高齢者見守りネットワーク「しろい高齢者みまもりネット」 ひとり暮らし高齢者見守り事業(お元気みまもり事業) 見守りパートナー(訪問による見守り) ※養成研修がある ネットワークパートナー(電話などによる見守り)	お元気見守り事業紹介リーフレット
松戸市	市内在住の高齢者、障害者、子供を対象に事業者等と連携して、「松戸市高齢者等見守り活動」を実施。 活動提携事業者は39事業者。	ながいき手帳

千葉県でも高齢化の流れは止められず、人口総数630万人中、65歳以上の人口は約170万人で、その比率は28%にもなる。EC千葉の目標は、多くの県民に安心安全な生活ができるシステムを開発し、各自治体へ提案することである。

生活環境グループの会議はオンラインで行い、理事を中心に一般会員が自由に参加して意見を交換している。これからも多くの会員の皆様からの「身近なテーマ」の提案をお待ちしています。

[事務局長 香取 仁義]

＜新しいプロジェクトの発足＞

省エネ診断チームがスタート

省エネ診断チーム

EC千葉では、地球温暖化対策に資する活動の一つとして、エネルギー管理士等の専門知識を有した会員の能力を活用する方法を模索してきました。

千葉県の補助事業である業務用設備等脱炭素化促進事業補助金に係る中小事業者を対象とした省エネルギー診断について検討し、EC千葉として省エネ診断パートナー制度の登録申請を行い、「省エネルギー診断パートナー」に登録されました。

県の補助事業は、中小事業者等の脱炭素化への取組を支援するため、中小事業者等が実施する省エネルギーの促進や再生可能エネルギーの活用等に資する設備導入等の経費について補助金を交付するものです。補助金交付の条件として省エネ診断の受診が義務付けられています。

「省エネルギー診断」の流れは以下のとおりです。

- 1 受診申込
業務用設備等脱炭素化促進事業補助金事務局へ申込む。
- 2 診断事業者等の案内
事務局が、診断申込書等から診断事業者(EC千葉も含まれる)の候補を選定し、受診費(見積り)等と合わせて案内。
- 3 契約締結
事務局からの案内に基づき、診断事業者と診断受診日等を調整し、「省エネルギー診断受診に係る契約書」を締結。
- 4 事前調査
診断事業者は、診断申込書等により事前調査。
- 5 現地調査
診断事業者は、契約を締結した事務所又は事業所を訪問し、省エネ診断を実施。
- 6 結果報告
診断結果を報告書にまとめて、省エネルギー対策について提案。

以上のように、2026年度から、特別プロジェクト「省エネ診断チーム」として省エネルギー診断事業を実施して参ります。

[地球温暖化対策センター長 生野 宏]

開催報告

「水環境体験教室」

水環境対策センター

2025年度は「水環境体験教室」を水平展開できました。まず、船橋市での実績が4件と増加したこと。さらに、八千代市で「子ども環境教室」を初めて開催することができました。

船橋市の実績4件の経緯は次のようになります。

- ①豊富小学校：令和5年10月17日に船橋市教育委員会経由で船橋市立小学校55校へ「水環境体験教室」の紹介をおこなう。同月23日に豊富小学校から開催依頼が入って実施。その後令和6年および令和7年と3年連続して開催。
- ②船橋小学校：令和6年12月に教育委員会経由で船橋市立小学校55校へ環境省「令和6年度環境教育・ESD実践動画100選」に「水環境体験教室」紹介動画（3分）が認定された紹介をおこなう。令和7年4月に4年担当の先生より開催依頼が入って開催。
- ③市場小学校：私が令和6年ふなばし市民大学校マイスター学科に入校。講師でお世話になった山本稔先生のご尽力で校長先生へ「水環境体験教室」を紹介。学内で検討して頂き初めての開催となった。
- ④飯山満南小学校：同じく山本稔先生のご尽力で校長先生へ紹介後、学内で検討され開催できた。

八千代市は、一昨年有馬様のご紹介で環境学習ボランティア講師制度に私が登録をおこない、環境政策課主催の「子ども環境教室」で講師として声がかかり、テーマ“水環境について楽しく考えよう！～水環境から考える地球温暖化～”の講師を務めることができた。

これまでの実績です。野田市立南部小学校は5年連続となりました。

「水環境体験教室」開催実績							
No	開催日			開催場所	対象	クラス数	参加者
1	2019	8	31	野田市役所会議室	親子	—	30
2	2020	9	25	市川市立宮田小学校	4年生	2	81
3		11	16	野田市みずき小学校	4年生	3	99
4	2021	3	16	国府台小学校&第一中学校	小・中学生	—	24
5		11	19	白井市立桜台小学校	4年生	2	67
6		11	26	野田市立川間小学校	6年生	1	31
7	2022	2	22	市川市立宮田小学校	4年生	2	79
8		3	11	野田市立南部小学校	4年生	4	131
9	2023	1	30	野田市立南部小学校	4年生	4	127
10		12	19	船橋市立豊富小学校	4年生	1	24
11	2024	1	26	野田市立南部小学校	4年生	4	141
12		2	27-28	船橋市立船橋中学校	2年生	5	189
13		7	12	船橋市立豊富小学校	4年生	1	24
14		9	18	市川市立宮田小学校	4年生	2	65
15		12	12	野田市立南部小学校	4年生	3	96
16	2025	7	1	船橋市立船橋小学校	4年生	3	77
17		7	7	船橋市立豊富小学校	4年生	1	24
18		8	5	八千代市環境政策課 「子ども環境教室」	4～6年生	—	13 (保護者8)
19		10	3	船橋市立市場小学校	4年生	2	60
20		11	11	船橋市立飯山満南小学校	4年生	3	97
21		12	10	野田市立南部小学校	4年生	4	135

(※) 参加者は教師他も含んだ総数。

〔水環境対策センター長 井町臣男〕

開催報告

エコアクション21普及セミナー
EMS 支援センター

2025年8月27日(水)、(一財)千葉県環境財団および千葉商工会議所との共催で2005年から長年継続開催している「エコアクション21(EA21)普及セミナー」を千葉商工会議所第2ホールで開催した。

EA21は、環境省策定のガイドラインに基づいて、省エネルギー、CO₂の排出抑制、廃棄物の削減、水使用量の節約などの目標値を自主的に設定して活動する仕組みです。環境負荷の直接的な低減だけでなく、その結果が経営面にも直接的・間接的に効果を生みます。例えば、サプライチェーンを通じて中小企業に求められる種々の要望にも対応できる。

セミナーは次のように3部構成で開催した。

まずは、日本商工会議所 産業政策第2部の上林裕介様より、「中小企業のカーボンニュートラルに向けた取組と課題」と題して基調講演を頂いた。GX実現に向けた国・地域の取組、中小企業の取組内容や業種別の取組企業割合、更には取組のハードルと解決策などについて調査データに基づいてお話いただいた。



第2部として2社より活動の事例紹介を頂いた。

初めに、(株)UACJ 金属加工の生産本部 鬼澤義弘様および原澤勝彦様より、成田工場での環境保全活動を紹介いただいた。ユニットバス用壁パネルや介護車リフターなどを製造されており、太陽光発電パネルの工場屋根搭載、屋根塗装の更新、産業廃棄物の分別・再資源化に注力されている。

続いて、(株)ダスティ 経理・人事部の山崎大輝様より、社長提唱の『もったいない』精神を全社員が意識して、循環型社会のライフスタイル実現を目指した取り組みを紹介いただいた。EA21の認証・登録が顧客や地域の理解に役立ち、廃棄物処理業にとっても非常に有効であると感じているとのことであった。

第3部はNPO法人環境カウンセラー千葉県協議会の理事でEA21審査員の橋本正氏より、「認証・登録の手続きとガイドラインのポイント」と題してEA21の仕組みを説明した。併せて、EA21には組織の活性化、取引先からの要望対応、経営力の向上、等々のメリットがあり企業の競争力の強化につながる話をした。

2026年度は8月26日(水)に開催予定です。

[EMS 支援センター長 山畑 祐哉]

開催報告

第28回企業環境セミナー
EMS 支援センター

2025年10月23日(木)、27年前から千葉商工会議所と共催で開催している「企業環境セミナー」の第28回を千葉商工会議所第2ホールにて開催した。

ISO 14001は、環境マネジメントを会社経営と連結させて双方のパフォーマンスの向上を目指しています。2024年2月に「気候変動への配慮」を規格に追補されました。自社事業が環境変動に与える側面や受けるリスクを目標や活動に組み込むことがもめられる。この観点から、『経営に役立つ「気候変動への配慮」を目指して』をセミナーのテーマとした。

参加者は、来賓2名、一般(県内事業者)が20名、講師3名、主催者関係者が7名の総勢32名で、昨年より3名ばかり少なかった。開催にあたって、千葉県環境生活部 次長 古谷野久美子様より来賓挨拶をいただいた。

第1部の基調講演を「ISO 14001を活用した気候変動・脱炭素への対応」と題して(一財)日本品質保証機構 環境審査部 部長 山田衛様より頂いた。猛暑や洪水など、気候変動の影響と考えられる事象が身の周りで起こっており、気候変動に配慮した企業活動が求められている。ポイントは「業務改善と見える化」「新たな機会と活動」にあると強調された。また、2026年のISO 14001改正についても概要を説明頂いた。



第2部で次の2社から事例紹介を頂いた。

はじめに、「脱炭素社会に向けたリサイクルの取り組み」と題して、テラレムグループ(株) 経営企画本部 本部長補佐 小林由枝様より、様々な再生可能資源の原材料化や再商品化、エネルギー利用に取り組んで脱炭素社会の実現に努力されて様子を紹介いただいた。具体的には、廃棄物の固形燃料(RPF)化やメタン発酵ガスを活用した発電、廃プラ類の再生パレット化など。

続いて、「脱炭素経営によるサステナブル建材の展望」と題して、不二サッシ(株)サステナブル建材推進室 赤松毅史様より、アルミのライフサイクルにおけるCO₂排出量削減、具体的にはCO₂排出量が多いアルミ精錬を新地金からリサイクルアルミに変更、海外からのグリーンアルミの調達など。また、経産省のGXリーグに参画して一層の展開を図っておられる。

2026年度は10月22日(木)に開催予定です。

[EMS 支援センター長 山畑 祐哉]

開催報告

ISO14001&9001 内部監査員養成講座

EMS 支援センター

2025 年も例年同様に、ISO 14001 および ISO 9001 の内部監査員養成講座 2 日間コースを千葉商工会議所と共催で同所の第 2 ホールで開催した。

ISO 9001 第 38 回 6/11(水)-12 日(木) 24 名

第 39 回 11/26(水)-27 日(木) 22 名

ISO 14001 第 42 回 6/18(水)-19 日(木) 22 名

第 43 回 11/19(水)-20 日(木) 6 名

両 ISO は、組織の事業プロセスや戦略的な意思決定に統合してリスクおよび機会に効果的に取り組むことを求めている。それによって企業価値の向上につながる。こうしたことを踏まえて、講座では内部監査員に求められる“組織状況の理解”および“リスクと機会の特定”につながるノウハウの習得、並びに内部監査員として必要な“ISO 規格の理解”や“監査の進め方”、“監査技量の習得”を狙いとした。この狙いを効率よく達成するには、講義で習得した内容を即実習することが有効である。そのため、数人のグループに分かれて実施するケーススタディ演習（アクティブラーニング）に多くの時間（5 時間以上）を割いた。終了後のアンケート調査でも、演習体験によって理解が深まったとの意見を多く頂いた。

第 1 日 スケジュール	(必要により変更の可能性があり。また、講師が入れ替わります。)
9:00 ~ 9:20	オリエンテーション（主催者挨拶、講座の概要説明他）
9:20 ~ 9:40	第 1 章 環境経営に向けて（環境経営、SDGs）
9:40 ~ 12:00	第 2 章 ISO 14001 規格の解説（解説、個人演習）
12:00 ~ 13:00	昼食
13:00 ~ 15:00	第 2 章 ISO 14001 規格の解説（解説、個人演習）
15:00 ~ 15:30	第 3 章 内部監査の進め方（監査とは、チェックシート他）
15:30 ~ 17:00	グループ演習（チェックシートの作成）

第 2 日 スケジュール	(必要により変更の可能性があり。また、講師が入れ替わります。)
9:00 ~ 9:50	第 3 章 内部監査の進め方（実施方法、所見、個人演習）
9:50 ~ 12:00	グループ演習（模擬監査用チェックシートの作成）
12:00 ~ 13:00	昼食
13:00 ~ 13:50	グループ演習（模擬内部監査）
13:50 ~ 14:20	第 3 章 内部監査の進め方（まとめ、フォロー他）
14:20 ~ 15:10	グループ演習（修正報告書の作成）
15:10 ~ 15:30	第 4 章 内部監査の力量と心構え
15:30 ~ 16:00	講座での振り返りと復習
16:00 ~ 17:00	理解度テスト、アンケート

2026 年度の内部監査員養成講座開催予定は次です。

ISO 14001 6 月 10 日(水)-11 日(木)

11 月 18 日(水)-19 日(木)

ISO 9001 6 月 17 日(水)-18 日(木)

11 月 25 日(水)-26 日(木)

[EMS 支援センター長 山畑 祐哉]

活動報告

<みんなのひろば>の開催

環境学習センター

環境学習センターは、定款では「環境教育、環境学習を推進するための活動を行う」とされています。

しかし、最近では、日に日に拡大し様々な分野にまたがる「環境」の問題を踏まえて、会員の皆様の知見を広げるための活動に力点をおいて運営しています。

このため、センター所属会員は、環境カウンセラー千葉県協議会に所属しているすべての会員の皆様と考えています。

中でも、<みんなのひろば>は、概ね月一回の開催で、様々な経歴、経験、出自をお持ちの会員同士が、専門分野や興味をお持ちの分野について、発表・意見交換し、知識を上げるとともに、切磋琢磨できる場にしたいと考えています。

2025 年度に<みんなのひろば>で取り扱ったテーマは、以下のとおりです。

- ・「生き貫く 100 歳へ」～自然・生活環境を知って守る～
- ・「消費者庁と私の経験した再生可能エネルギー」
- ・「Microsoft365 のセットアップの Hand's On」
- ・「今日から役立つふろしき講座」
- ・「日本人の睡眠障害」
- ・「『食品ロス（家庭から）』の発生、減った？ 増えた？」

- ・「自然観察会（江戸～明治の庭園と下町文化）」の事前学習会

様々な切り口からの環境への関与が窺えると思います。昨年度には、食品ロスに関する座談会なども実施し、自由な意見交換を行いました。

引き続き、たくさんの会員の皆さんの参加をお待ちするとともに活発な議論を行えることを楽しみにしております。

[環境学習センター長 捧 一夫]



施設見学会実施報告

東京都水道歴史館

水環境対策センター

実施日：2025年9月27日(土)、参加者5名

東京都水道歴史館の見学は、日常ではあまり意識しない「水道」というインフラの重みを、歴史と生活を通して体感できる点が非常に印象的な体験となりました。

館内は、江戸の浄水から近現代の水道まで、時代順にたどれる構成になっており水利用の変化と技術発展の流れがよく理解できました。

近代以降のフロアーでは、浄水場・ダム・配水管網などの展示を通じて、都市インフラとしての水道がどれほど巨大で複雑なシステムかを再認識させられました。

現在の東京都の水道は、荒川水系、多摩川水系、利根川水系からの取水が主な供給源です。

見学会を通じて感じたことは、「蛇口をひねれば当たり前のように安全な水が出る」という認識の裏には膨大な試行錯誤と犠牲、そして継続的な努力によって近代水道の整備につながっているということだと感じました。

静かに落ち着いて展示を見て回れる雰囲気です。都市の真ん中でふと足を止めて「水と都市の関係」を考える時間を持つには最適の場所だと思います。

[東京都水道歴史館]

住 所：東京都文京区本郷2-7-1

最寄駅：JR御茶ノ水駅より徒歩8分



[水環境対策副センター長 久保田 隆]

自然観察会実施報告

清澄庭園と深川江戸資料館

環境学習センター

2025年度の自然観察会は、過年度にコロナ禍の影響で実施を断念した「江戸～明治の庭園と下町文化」を感じる会のリベンジ開催とし、12月13日(土)に江東区の清澄庭園の散策と深川江戸資料館の見学を行った。

前日に、気温が急降下し、また、翌日は雨予報という状況の中、当日は穏やかな野外活動にもってこいの天候となった。

参加者は7名で、内1名は会員外の方であったが、相変わらず参加者が少ないのが残念であった。

清澄庭園では、ボランティアの方の解説を受けながらの散策で、「石の庭園」と呼ばれる所以である庭石は、気をつけないと見落としをしまいそうなものもあったが、もれなく観察できた。また、紅葉は、終盤に近づいていたが、イチョウ、カエデなどは楽しむことができた。

昼食は、地元の名物「深川めし・深川丼」を皆で美味しくいただき、深川江戸資料館に向かった。

深川江戸資料館では、再現された江戸末期の船宿や長屋を見学し、この時代に深川周辺で活躍していた文化人の様子や庶民の暮らしなどを感じていただけたと思う。一部の方は、たまたま開催されていた「講談」を火の見櫓の下の広場で聞くことができ、その後、流れ解散とした。

11月2日に実施した「みんなのひろば」で「清澄庭園と深川江戸資料館」について、事前学習を実施し、当日、その際に使用したパワーポイントの紙出力を皆さんに配布したが、参考になりましたでしょうか？



コロナ禍で中断後今回で4回目の自然観察会の運営だったが、1回目11名、2回目8名、3回目6名、今回7名と参加人数が低迷している。計画着手の時期をより早くして、周知期間を長く取るなど、工夫をしていくことで、参加者数が少しでも増えることを期待したい。

[環境学習センター長 捧 一夫]

活動報告

「食品ロス削減の活動（講演会）」
廃棄物対策センター

日本における 2023 年度の食品ロス量は、消費者庁の発表によると家庭系 233 万トン、事業系 231 万トン、合計 464 万トン発生。その経済損失の合計は 4 兆円（国民 1 人当たり 31,814 円/年、温室効果ガス排出量の合計は 1,050 万トン-CO2（国民 1 人当たり 84kg-CO2/年は良く知られている）。

これまで会員個人が食品ロス削減サポーター（消費者庁）として活動していたが、一昨年に廃棄物対策センターが窓口となり、EC 千葉として団体登録。

食品ロス削減活動の一環として、6 月 22 日西白井複合センターで環境問題講演会「ウェルビーイングを考えてみましょう」を開催した（白井市共催）。

これは、食品ロス削減の取組みから子ども食堂へと繋がり、子ども食堂を運営し里親研究や国連こども権利条約問題等活動されている早稲田大学元教授川名はつ子先生との出会いから講師をお願いした。当日は会場で国連こども権利条約のパネル展を併催し多くの市民が関心を持って見ていた。講演会の参加者は募集定員 15 名より多く 31 名であった。

参加者からいただいたアンケートの集計結果である。感想やご意見も多数いただいた。

- ①本日の講演は、全体として如何でしたでしょうか？ 良かった：67%、普通：27%、その他：6%
- ②「ウェルビーイング」を考えてみて、どうでしたか？ 理解できた：64%、少し理解できた：30%
- ③参加申し込みの際、興味をもったのは？ ウェルビーイング：28%、子どもの権利条約：28%、子ども食堂：23%、SDGs：13%
- ④講演会はどこで知りましたか？ 知人・友人：35%、広報：24%、ポスター・チラシ：18%、その他：18%
- ⑤次回お聞きしたいテーマは？ 食品ロス：25%、環境と福祉：18%、地球温暖化：16%、防災：12%、他

現在の EC 千葉の登録者数 11 名、消費者庁からの情報（メルマガ第 53 号）の食品ロス削減推進サポーター向けフォローアップ講座 アーカイブ動画の掲載を会員に水平展開し拡大して行きたい。



（廃棄物対策センター長 中嶋 滋）

活動報告

「うちエコ診断の実施イベント参加」
うちエコ診断実施機関

「うちエコ診断実施機関 EC 千葉ネット」の活動は、千葉市の支援を受け対面診断とオンライン診断を実施している。また、参加した各イベント会場で簡易診断を行い、2025 年も家庭部門の CO2 削減や光熱費削減への普及・啓発活動を行った。

「エコメッセ」（10 月 19 日）では、EC 千葉のブースで、家庭部門の省エネや再生可能エネルギーの導入、光熱費の削減のヒントなどを中心に参加市民に対して啓発活動を行うと同時に、実際に診断を希望する方には簡易の診断を行った。

当初からの診断結果（統計データ）では CO2 削減率として平均 18 - 20%、光熱費の節約率は平均 20 - 22%の実績がでている。

また、千葉市・千葉市民活動支援センター主催の「千葉市民活動フェスタ」（11 月 15 - 16 日きぼーアトリウム会場）に参加し、うちエコ診断実施機関として家庭の省エネ促進のための簡易診断を実施しました。なお、受診者には緑のカーテン用のアサガオやフウセンカズラの種などをさし上げました。

上記の 2 つのイベントは毎年おこなわれていますが、コロナ感染症の時期後、診断の仕組みや社会実装が著しく変化しており、一般市民のライフスタイルや地球温暖化対策の意識の変化を共有しながら、今後の活動に活かしていく有益な機会となりました。特に、猛暑日が長かった今年、地球温暖化対策やカーボンニュートラル(CN)に関心ある方は、自分の家庭（自宅）からの CO2 (kg) がどの位が発生しているか、どの程度の対策が期待できるかを知ることが我々世代共通の課題でもあります。

〔うちエコ診断実施機関責任者 吉田 昌弘〕



千葉市民活動フェスタ

うちエコ診断風景



出展報告

「エコメッセ 2025 in ちば」に参加

事業部

千葉県最大の環境活動見本市として「エコメッセちば 2025」が、2025 年 10 月 19 日(日)に幕張メッセ国際会議場コンベンションホールで開催された。

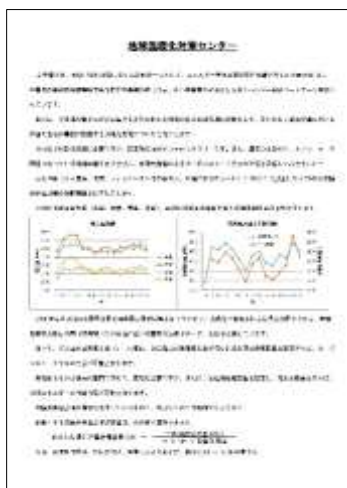
本年は 30 周年感謝祭につき「出展団体ブース・ゾーン」では 94 団体が出展、併設された「SDG's マルシェ」、「もったいないものバスターズ」に加え、「ビンゴ大会」や「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」が行われるという多様なイベントとなった。他には、次回までの 1 年間のオンライン出展も継続して実施されている。

EC 千葉では、協議会が活動する 5 センター 1 グループの紹介パネルを展示し、フロントではエコ 2 択クイズ（担当－佐藤秀樹）と、うちエコ診断グループによる対面の簡易診断の実施を行った（担当－吉田、佐藤ミヤ子、中村、茨城）。

概して、来訪参加者は子連れが目立ち、環境への親の関心度を示しており、こどもへの環境教育という点で将来への重要な役割を持つ、と感じた。

・パネルによる活動紹介

「EMS 支援センター」：担当－橋本、
「環境学習センター」：担当－捧
「水環境対策センター」：担当－井町、
「地球温暖化対策センター」：担当－生野
「廃棄物対策センター」：担当－中嶋
「生活環境グループ」：担当－井町



第24回通常総会および特別講演会の開催

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の第24回通常総会を定款24条により次のとおり開催します。
総会に先立ち総会特別講演会(「環境公開講座」として EC 千葉会員外にも公開)を開催し、
特別講演会に続けて同じ会場で総会を行います。

1. 日時 2026年5月24日(日) 13時30分～16時30分
[受付開始：13時]
2. 場所 千葉商工会議所第2ホール(14階)
3. 特別講演会 [13：30～15：10]
講師：(株)日建設計総合研究所主任研究員 近藤武士氏
4. 通常総会 [15：30～16：30]
議事 第1号議案 2025年度事業報告ならびに決算報告
第2号議案 2025年度監査報告
第3号議案 2026年度事業計画案ならびに予算案
5. 詳細案内 5月はじめに往復ハガキでご案内いたします。

総務部からの御礼

2025年7月～12月の間に、次の方々から当協議会へ
ご寄付いただきました。

中嶋滋様 16,670円
中村仁様(2件) 8,000円
橋本正様 17,958円

ありがとうございました。

編集後記

新年迎えたところらでの発行号として、巻頭に理事長からの2026年活動の基本的考えを書いていただき、2ページに昨年立ち上げた新しい活動グループを紹介し、3ページ以降に2025年の活動の中の各部・センターのトピックスを載せました。

理事長からのメッセージにありますように、2026年は昨年新しく立ち上げた2つの活動を軌道にのせることが課題です。

私たちを取りまく環境情勢は大きく変わってきており、例えば地球温暖化においてはパリ協定の目標1.5℃を越えるまでに温暖化が進み、適応策への取り組みがますます重要となっています。

また、科学技術の進歩は目ざましく、特に昨年来のAIの進展は驚きですが、私たちもこれを単に傍観しているのではなく、できるだけ取り入れて活動の下支えにするとともに新しい活動への糧となるよう努めてゆきたいと考えます。

[服部達雄]

広報 環境カウンセラーちば 第66号 (発行日 2026年1月15日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (責任者：広報部長 山畑祐哉)
(編集担当：服部達雄)

事務局：〒273-0047 船橋市藤原 6-1-7

(E-mail) ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

(URL) <https://ecchiba.sakura.ne.jp>